

宇治茶 見て歩いて味わって

「お茶の京都博」八幡市で開幕

宇治茶のふるさと京都府南部・山城地域12市町村を舞台に、1年を通してお茶にまつわるイベントを展開する「お茶の京都博」のオープニングイベント「さくら茶会」が4月1日、2日の2日間、淀川河川公園背割堤地区で開催されました。



「宇治茶BAR」でお茶を味わう来場者たち



宇治茶で乾杯する開会式典出席者たち

「お茶の京都博」は、府や山城地域12市町村などで構成される実行委員会が主催。お茶の生産地に赴いてもらい、歩いて、見て、味わうことで新しい宇治茶の魅力を見つけてもらおうと、さまざまなイベントが企画されています。

開会式典では、府茶業連合青年団の小林裕団長が「宇治茶の伝統と文化を引き継ぎ、お茶の力で心を豊かにし、京都から全国、世界中に魅力を発信する」と開会を宣言。その後、堀口市長の発声で、式典出席者らが宇治茶で乾杯しました。

会場では、煎茶や玉露、抹茶が気軽に味わえる「宇治茶BAR」が設けられ、日本茶インストラクターらがお茶を入れて来場者をおもてなし。

八幡市抹茶席では、京都八幡高校の生徒らが、市で生産された碾茶を加工して作られた抹茶「浜乃風」を点て、市内中学生たちがお茶とお茶菓子を運び、来場者たちが緑が広がる自然の中で抹茶を味わいました。



抹茶を点てる京都八幡高校の生徒



お茶を入れるパフォーマンスを披露する「サムライ茶人」

また、近隣市町村などからお茶関連の物産品が展示されたり、バーテンダー扮する「サムライ茶人」によるボトルを投げるなどしてお茶を入れるパフォーマンスが披露されたりするなど、来場者たちはさまざまな形で宇治茶の魅力に触れていました。

京都市から訪れた松島剛さんは「お茶は味がしっかり出ている、びっくりするくらいおいしかったです。桜はまだつぼみでしたが、緑がきれいで、飲む場所も大事だと感じました」と話していました。

八幡京田辺ICを出発する参加者たち



開通前ウォーキングに3000人

新名神高速道路（城陽〜八幡京田辺間）の開通（4月30日）を記念し、4月23日、開通前の道路を歩く「フリーウォーキング」が開催されました。

4月30日 新名神高速道路 城陽〜八幡京田辺間が開通

参加者たちは、来場した子どもたちの掛け声で、開通前の真新しい道路へ。車で通るとは違い、ゆっくりと道路からの景色を眺めながら、フリーウォーキングを楽しんでいました。

まちの話題

つばきと竹の競演

3月31日〜4月2日の3日間、松花堂庭園で春の風物詩となっている「松花堂つばき展」が開催されました。約1400人が訪れ、つばきの甘い香りが漂う中、竹とつばきの競演を満喫していました。

植え、アートフラワーなど、さまざまな趣向を凝らしてつばきを紹介しました。

同展は、松花堂にゆかりのある竹とつばきを楽しんでもらおうと、同園などが主催し、今年で20回目。

また、1、2日には、和菓子や茶器にまでつばきをあしらったお茶会なども開催され、来場者はつばきづくしのひと時を過ごしていました。

園内では、自生するつばき約250本に加え、竹細工に飾り付けた、切り花（約300種）、盆栽、鉢

大阪府から初めて訪れた岡田美智代さん、清水孝子さんは、「つばきが大好きで、昨年から楽しみにしていました。驚くほどたくさんあり、竹とのコラボも良かったです」と笑顔で話していました。



色とりどりのつばきを楽しむ来場者

「このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。」